

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表

令和3年2月26日
関東運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
佐野市地域 公共交通協 議会	佐野市	【基幹線】 (道の駅経由) 葛の里壱番館～ 田沼行政セン ター～佐野新都 市バスターミナ ル (栃本経由) 葛の里壱番館～ 田沼駅前～佐野 新都市バスター ミナル	利用状況や期待される数 値を踏まえて目標を設定し た。利用促進を図るための 取組みとして「バスの乗り 方教室」を継続して行っ た。また市営バスのHPを 改善し、バス利用者により わかり易いものとした。 収支率の改善や利便性の 向上に向け、路線やダイ ヤの改編を行った。	事業が計 画に位置 づけされ たとおり、 適切に実 施された。	①平均乗車密度 【目標】2.4⇒【実績】2.09 ②平均乗車人数／便 【目標】9.2人⇒【実績】8.7 人 ③収支率 【目標】36.0% ⇒【実績】33.2% 新型コロナウイルスの影 響により、利用者数が減 少したため、全ての項目 において目標値を下回っ た。	令和2年4月1日より基幹 線は田沼葛生線と植下高 萩線に再編した。再編後 の路線の内容を広く周知 し、利用者増を図ってい く。また、今後の利用者数 の動向に注視し、運行ダ イヤや運行経路の検討し ていく。	路線やダイヤの改編、HPで の案内を改善、一部路線に ICカード対応運賃箱の設置 をするなど、地域の公共交 通全般の利便性向上に取り 組まれたことは評価出来る が、平均乗車人数、平均乗 車密度及び収支率の目標は 未達成となった路線が多 い。新型コロナウイルス感 染症拡大の影響も大きい と思うが、未達成となっ た原因が感染症拡大の影 響によるものなのかどう か、適切に分析を行い、 今後の施策の検討するこ とを期待したい。また、 運行内容変更による利用 者の減少に対しては、適 切に周知を行うことを期 待する。	
佐野市地域 公共交通協 議会	佐野市	【秋山線】 木浦原～市営バ ス車庫前	利用状況や期待される数 値を踏まえて目標を設定し た。利用促進を図るための 取組みとして「バスの乗り 方教室」を継続して行っ た。また市営バスのHPを 改善し、バス利用者により わかり易いものとした。 収支率の改善や利便性の 向上を目指し、令和2年4 月1日より路線バスによ る運行から、区域運行に移 行した。	事業が計 画に位置 づけされ たとおり、 適切に実 施された。	①平均乗車密度 【目標】0.65⇒【実績】 0.66 ②平均乗車人数／便 【目標】2.2人⇒【実績】2.5 人 ③収支率 【目標】12.0% ⇒【実績】13.3% 全ての項目において目 標値を上回った。	令和2年4月1日より秋山 線は路線定期運行から区 域運行に移行した。運行 内容が大きく変更となる ため広く周知を行い、区 域運行の地域への定着を 目指していく。	令和2年4月1日より秋山 線は路線定期運行から区 域運行に移行した。運行 内容が大きく変更となる ため広く周知を行い、区 域運行の地域への定着を 目指していく。	

佐野市地域公共交通協議会	佐野市	【仙波会沢線】 (仙波) 大釜～市営バス車庫前～佐野市民病院 (会沢) 会沢小室～こばやしファミリークリニック～市営バス車庫前	利用状況や期待される数値を踏まえて目標を設定した。利用促進を図るための取組みとして「バスの乗り方教室」を継続して行った。また市営バスのHPを改善し、バス利用者によりわかり易いものとした。収支率の改善や利便線の向上を目指し、令和2年4月1日より路線バスによる運行から、区域運行に移行した。	事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	①平均乗車密度 【目標】0.45⇒【実績】0.36 ②平均乗車人数／便 【目標】2.0人⇒【実績】1.8人 ③収支率 【目標】20.0%⇒【実績】18.5% 新型コロナウイルスの影響により、利用者数が減少したため、全ての項目において目標値を下回った。	令和2年4月1日より仙波会沢線は路線定期運行から区域運行に移行した。運行内容が大きく変更となるため広く周知を行い、区域運行の地域への定着を目指していく。
佐野市地域公共交通協議会	佐野市	【野上線①】 蓬山ログビレッジ～田沼行政センター	利用状況や期待される数値を踏まえて目標を設定した。令和元年10月より野上線は運行内容が大きく変更となったため、変更内容を地域説明会の実施や、佐野市の広報誌・HPにより周知をした。	事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	①平均乗車密度 【目標】0.50⇒【実績】0.41 ②平均乗車人数／便 【目標】2.0人⇒【実績】1.3人 ③収支率 【目標】9.0%⇒【実績】3.5% 運行内容の大きな変更により、従来の利用者が一時的に離れ、利用者数や収支率が大幅な減となった。	令和2年4月1日より野上線は全便区域運行とした。運行内容が大きく変更となるため丁寧に周知し、利便性の向上や利用者増を目指していく。特に野上地区ではバス利用者数が減少傾向にあるため、積極的な乗り方教室の実施等を行う。
佐野市地域公共交通協議会	佐野市	【野上線②】 作原町ほか8町	利用状況や期待される数値を踏まえて目標を設定した。令和元年10月より野上線は運行内容が大きく変更となったため、変更内容を地域説明会の実施や、佐野市の広報誌・HPにより周知をした。	事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	①平均乗車人数／便 【目標】2.0人⇒【実績】1.8人 ③収支率 【目標】9.0%⇒【実績】3.9% 運行内容の大きな変更により、従来の利用者が一時的に離れ、利用者数や収支率が大幅な減となった。	令和2年4月1日より野上線は全便区域運行とした。運行内容が大きく変更となるため丁寧に周知し、利便性の向上や利用者増を目指していく。特に野上地区ではバス利用者数が減少傾向にあるため、積極的な乗り方教室の実施等を行う。

佐野市地域公共交通協議会	佐野市	【飛駒線】 寺沢入口～田沼行政センター	利用状況や期待される数値を踏まえて目標を設定した。利用促進を図るための取組みとして「バスの乗り方教室」を継続して行った。また市営バスのHPを改善し、バス利用者によりわかり易いものとした。収支率の改善や利便線の向上を目指し、令和2年4月1日より路線バスによる運行から、区域運行に移	事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	①平均乗車密度 【目標】0.7⇒【実績】0.61 ②平均乗車人数／便 【目標】3.0人⇒【実績】2.7人 ③収支率 【目標】11.0%⇒【実績】10.7% 新型コロナウイルスの影響により、利用者数が減少したため、全ての項目において目標値を下回った。	令和2年4月1日より飛駒線は路線定期運行から区域運行に移行した。運行内容が大きく変更となるため広く周知を行い、区域運行の地域への定着を目指していく。
佐野市地域公共交通協議会	佐野市	【名水赤見線】 (運動公園循環線) 佐野駅～運動公園～佐野駅 (さくらの里線) 佐野駅～運動公園～さくらの里～佐野駅	沿線にある高校の新入生全員に案内チラシを配布し、オリエンテーション時に定期乗車券購入申込を受けつけ、新規利用者を獲得した。また市営バスのHPを改善し、バス利用者によりわかり易いものとした。令和2年4月1日より運動公園循環線はダイヤの変更、さくらの里線は区域運	事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	①平均乗車密度 【目標】2.1⇒【実績】1.39 ②平均乗車人数／便 【目標】9.0人⇒【実績】7.2人 ③収支率 【目標】35.0%⇒【実績】25.0% 新型コロナウイルスの影響により、利用者数が減少したため、全ての項目において目標値を下回った。	令和2年4月1日より運動公園循環線はダイヤの変更、さくらの里線は区域運行に移行した。運行内容が大きく変更となるため広く周知を行い、区域運行の地域への定着を目指していく。
佐野市地域公共交通協議会	佐野市	【犬伏線】 佐野新都市バスターミナル～佐野駅	利用状況や期待される数値を踏まえて目標を設定した。利用促進を図るための取組みとして「バスの乗り方教室」を継続して行った。また市営バスのHPを改善し、バス利用者によりわかり易いものとした。収支率の改善や利便性の向上に向け、ダイヤの改編を行った。	事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	①平均乗車密度 【目標】0.75⇒【実績】0.71 ②平均乗車人数／便 【目標】2.5人⇒【実績】2.6人 ③収支率 【目標】12%⇒【実績】12.7% 平均乗車人数、収支率については目標値を上回った。	令和2年4月1日より12便から8便に変更し、収支率の向上を目指す。また、変更後のダイヤを広く周知し、利用者増を図っていく。また、今後の利用者数の動向に注視し、運行ダイヤや運行経路の検討していく。

佐野市地域公共交通協議会	ジェイアールバス関東(株)	【田沼葛生線】 佐野駅～葛生駅 南バス回転所	路線改編前の利用状況を踏まえて目標を設定した。また、利便性向上の取り組みとして、スマホ定期券の導入、ICカード対応運賃箱の設置、Googleマップでの運行情報提供を実施した。	事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	①1日あたりの利用者数【目標】80人⇒【実績】43人 新型コロナウイルスの影響による利用減により、目標値を下回った。	利用者数の集計結果や、車両乗り込みにより利用者アンケートの結果を考慮し、より効率的で利便性の高い運行経路、運行ダイヤを引き続き検討していく。
佐野市地域公共交通協議会	ジェイアールバス関東(株)	【運動公園循環線】 佐野駅～運動公園～佐野駅	路線改編前の利用状況を踏まえて目標を設定した。また、利便性向上の取り組みとして、スマホ定期券の導入、ICカード対応運賃箱の設置、Googleマップでの運行情報提供を実施した。	事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	①1日あたりの利用者数【目標】70人⇒【実績】63人 新型コロナウイルスの影響による利用減により、目標値を下回った。	利用者数の集計結果や、車両乗り込みにより利用者アンケートの結果を考慮し、より効率的で利便性の高い運行経路、運行ダイヤを引き続き検討していく。 佐野松桜高校の新入生全員に案内チラシを配布し、新規利用者の獲得を図る。
佐野市地域公共交通協議会	ジェイアールバス関東(株)	【犬伏線】 佐野新都市バスターミナル～佐野駅	路線改編前の利用状況を踏まえて目標を設定した。また、利便性向上の取り組みとして、スマホ定期券の導入、ICカード対応運賃箱の設置、Googleマップでの運行情報提供を実施した。	事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	①1日あたりの利用者数【目標】30人⇒【実績】21人 新型コロナウイルスの影響による利用減により、目標値を下回った。	利用者数の集計結果や、車両乗り込みにより利用者アンケートの結果を考慮し、より効率的で利便性の高い運行経路、運行ダイヤを引き続き検討していく。
佐野市地域公共交通協議会	佐野交通(株)	【葛生エリア】 秋山町ほか12町	路線運行時の利用状況を踏まえて目標を設定した。利用促進を図るための取り組みとして「バスの乗り方教室」を行った。佐野市HPのバスのページを改善し、バス利用者によりわかり易いものとした。	事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	①1日あたりの利用者数【目標】30人⇒【実績】19人 ②稼働率【目標】50%⇒【実績】19% 地域に区域運行の利用の仕方が定着していないことや、新型コロナウイルスの影響による利用減により、目標値を下回った。	乗り方教室を実施し、区域運行の地域への定着を目指していく。 乗り込みによる利用者アンケートを行い、利用者のニーズに沿った運行内容を検討する。

佐野市地域公共交通協議会	佐野合同自動車(株)	【田沼エリア】 作原町ほか12町	路線運行時の利用状況を踏まえて目標を設定した。利用促進を図るための取組みとして「バスの乗り方教室」を行った。佐野市HPのバスのページを改善し、バス利用者によりわかり易いものとした。	事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	①1日あたりの利用者数 【目標】30人⇒【実績】23人 ②稼働率 【目標】50%⇒【実績】31% 地域に区域運行の利用の仕方が定着していないことや、新型コロナウイルスの影響による利用減により、目標値を下回った。	乗り方教室を実施し、区域運行の地域への定着を目指していく。 乗り込みによる利用者アンケートを行い、利用者のニーズに沿った運行内容を検討する。
佐野市地域公共交通協議会	赤見タクシー(有)	【赤見エリア】 赤見町ほか3町	新たに運行する路線のため、期待される目標を設定した。利用促進を図るための取組みとして「バスの乗り方教室」を行った。佐野市HPのバスのページを改善し、バス利用者によりわかり易いものとした。	事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	①収支率 【目標】20%⇒【実績】5% ②稼働率 【目標】50%⇒【実績】14% 地域に区域運行の利用の仕方が定着していないことや、新型コロナウイルスの影響による利用減により、目標値を下回った。 次年度以降は現状にあった目標値を設定する。	エリア内の町会毎に乗り方教室を実施する。 赤見エリアに限定したチラシを作成し、区域運行の利用の仕方を周知していく。 乗り込みによる利用者アンケートを行い、利用者のニーズに沿った運行内容を検討する。
佐野市地域公共交通協議会	旭タクシー(株)	【吾妻エリア】 村上町ほか3町	新たに運行する路線のため、期待される目標を設定した。利用促進を図るための取組みとして「バスの乗り方教室」を行った。佐野市HPのバスのページを改善し、バス利用者によりわかり易いものとした。	事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	①収支率 【目標】20%⇒【実績】3% ②稼働率 【目標】50%⇒【実績】5% 地域に区域運行の利用の仕方が定着していないことや、新型コロナウイルスの影響による利用減により、目標値を下回った。 次年度以降は現状にあった目標値を設定する。	エリア内の町会毎に乗り方教室を実施する。 吾妻エリアに限定したチラシを作成し、区域運行の利用の仕方を周知していく。 エリア内の町会役員を集め、デマンド交通に関する意見交換会を実施するなど、地域と連携して利用促進を行っていく。

**地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)**

令和3年2月26日

関東運輸局

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映 状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
宇都宮市地域公共交通協議会	事業者名: 泉タクシー(株)	区域運行: 篠井地区(全域)	・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。 ・PR活動の実施や地域行事日に合わせて運行を行うなど利用促進を図った。 ・新規登録世帯及び利用登録はしているが、実際の利用に至らない世帯を対象に無料乗車券を配布するなど利用促進を図った。	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	【目標】 ・1回あたりの平均乗車人数2.0人／回に対し、1.5人であった。 ⇒利用者数が減少傾向にあるため、地域ニーズを踏まえた運行計画の改善・見直しの検討を行い、利用者の増加を目指していく。 ・後期高齢化率17.7%に対し、自治会加入世帯数に占める登録世帯数の割合は26.4%であった。 【効果】 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、鉄道駅や路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が減少する中、交通事業者と連携し、車両における消毒の徹底など、地域住民の不安の払拭を図っている。	・利用登録率・後期高齢化率がともに高い地区であり、固定の利用者による通院利用が中心となっているため、高齢単身世帯をターゲットとした利用促進などに取り組んでいく。 ・既存公共交通との適切な役割分担のもと、地域ニーズの運行計画への反映や路線バスとの接続強化などに取り組むことで、更なる利便性向上を図っていく。 ・交通事業者と連携しながら、引き続き、地域住民が安全・安心に利用できる車内環境を整備し、コロナ禍における利用者の不安の払拭を図っていく。	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。 貴市においては、鉄道、路線バス、乗合タクシーが運行しており、当該補助対象であるデマンド交通については既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図っていることを評価する。 また、運転免許証返納者に対する回数券の配布や、地域内交通の利用方法やQ&Aを載せたチラシを地区の情報紙と併せて配布するなど、利用促進に取り組んでいる。引き続き、PR活動を積極的に実施するなど、地域と共に持続可能な公共交通の構築に向け取り組んでいただくことを期待する。	

宇都宮市地域公共交通協議会	事業者名: 泉タクシー(株)	区域運行: 富屋地区(全域)	・PR活動の実施や地域行事日に合わせて運行を行うなど利用促進を図った。 ・地域ニーズを反映した運行計画を策定するとともに、上河内地域路線バスとの乗継割引を実施するなど利便性向上を図った。	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	【目標】 ・1回あたりの平均乗車人数2.0人／回に対し、1.6人であった。 ⇒利用者数が減少傾向にあるため、地域ニーズを踏まえた運行計画の改善・見直しの検討を行い、利用者の増加を目指していく。 ・後期高齢化率20.1%に対し、自治会加入世帯数に占める登録世帯数の割合は23.4%であった。 【効果】 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が減少する中、交通事業者と連携し、車両における消毒の徹底など、地域住民の不安の払拭を図っている。	・高い登録率を維持していることから、実利用者が少ない自治会をターゲットとした周知や利用促進に取り組むなど新たな利用者の拡大を図っていく。 ・既存公共交通との適切な役割分担のもと、地域ニーズの運行計画への反映や路線バスとの接続強化などに取り組むことで、更なる利便性向上を図っていく。 ・交通事業者と連携しながら、引き続き、地域住民が安全・安心に利用できる車内環境を整備し、コロナ禍における利用者の不安の払拭を図っていく。
宇都宮市地域公共交通協議会	事業者名: 泉タクシー(株)	区域運行: 上河内地区(全域)	・PR活動の実施や地域行事日に合わせて運行を行うなど利用促進を図った。 ・地域ニーズを反映した運行計画を策定するとともに、上河内地域路線バスとの乗継割引を実施するなど利便性向上を図った。	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	【目標】 ・1回あたりの平均乗車人数2.0人／回に対し、1.4人であった。 ⇒利用者数が減少傾向にあるため、地域ニーズを踏まえた運行計画の改善・見直しの検討を行い、利用者の増加を目指していく。 ・後期高齢化率12.9%に対し、自治会加入世帯数に占める登録世帯数の割合は14.2%であった。 【効果】 ・公共施設や医療機関など幅広く利用されている。また、鉄道駅への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくり、郊外活動にも寄与している。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が減少する中、交通事業者と連携し、車両における消毒の徹底など、地域住民の不安の払拭を図っている。	・引き続き、PR活動に積極的に取り組むことで利用促進を図っていく。 ・地域ニーズ調査等に基づく接続施設の充実や路線バスとの接続強化などに取り組むことで、利便性の向上を図っていく。 ・既存公共交通との適切な役割分担のもと、地域ニーズの運行計画への反映や路線バスとの接続強化などに取り組むことで、更なる利便性向上を図っていく。 ・交通事業者と連携しながら、引き続き、地域住民が安全・安心に利用できる車内環境を整備し、コロナ禍における利用者の不安の払拭を図っていく。

宇都宮市地域公共交通協議会	事業者名: 泉タクシー(株)	区域運行: 平石地区(全域)	・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。 ・PR活動の実施などの利用促進を図った。 ・オリジナルポスターを作成し、自治会集会所に掲示するなど利用促進を図った。	事業が計画に位置付けられ、適切に実施された。	【目標】 ・1回あたりの平均乗車人数2.0人／回に対し、1.6人であった。 ⇒利用者数が減少傾向にあるため、地域ニーズを運行計画に反映し利便性の向上を図るとともに、さらなるPR活動の実施により、利用者の増加を目指していく。 ・後期高齢化率12.3%に対し、自治会加入世帯数に占める登録世帯数の割合は21.6%であった。 【効果】 ・公共施設や医療機関など幅広く利用されている。また、鉄道駅への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が減少する中、交通事業者と連携し、車両における消毒の徹底など、地域住民の不安の払拭を図っている。	・路線バスとの乗継拠点である大型商業施設の目的施設の追加や、地道な周知・啓発の取組により、今後、利用の定着が見込まれることから、既存公共交通との適切な役割分担のもと、地域ニーズの運行計画への反映や路線バスへの接続強化などに取り組むことで、更なる利便性の向上を図っていく。 ・引き続き、自治会未加入世帯に対する周知・啓発に取り組むことで、更なる利用促進を図っていく。 ・交通事業者と連携しながら、引き続き、地域住民が安全・安心に利用できる車内環境を整備し、コロナ禍における利用者の不安の払拭を図っていく。
宇都宮市地域公共交通協議会	事業者名: アサヒタクシー(株)	区域運行: 横川地区(全域)	・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。 ・PR活動の実施などの利用促進を図った。 ・地域行事日において、体験乗車会の実施や無料乗車券の配布などの利用促進を図った。	事業が計画に位置付けられ、適切に実施された。	【目標】 ・1回あたりの平均乗車人数2.0人／回に対し、2.0人であった。 【効果】 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、鉄道駅や路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が減少する中、交通事業者と連携し、車両における消毒の徹底など、地域住民の不安の払拭を図っている。	・引き続き、PR活動に積極的に取り組むとともに、今後、高齢者となる世代にも対応した利用促進策を検討していく。 ・既存公共交通との適切な役割分担のもと、地域ニーズの運行計画への反映や路線バスとの接続強化などに取り組むことで、更なる利便性向上を図っていく。 ・交通事業者と連携しながら、引き続き、地域住民が安全・安心に利用できる車内環境を整備し、コロナ禍における利用者の不安の払拭を図っていく。

宇都宮市地域公共交通協議会	事業者名:アサヒタクシー(株)	区域運行:河内地区(全域)	・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。 ・PR活動の実施などの利用促進を図った。 ・特に、地域内交通の利用方法やQ&Aを載せたチラシを新たに作成し、河内地区の情報紙と併せて配布するなど、徹底した利用促進を行った。	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	【目標】 ・1回あたりの平均乗車人数2.0人／回に対し、2.2人であった。 【効果】 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、鉄道駅や路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が減少する中、交通事業者と連携し、車両における消毒の徹底など、地域住民の不安の払拭を図っている。	・引き続き、PR活動に積極的に取り組むとともに、今後、高齢者となる世代にも対応した利用促進策を検討していく。 ・既存公共交通との適切な役割分担のもと、地域ニーズの運行計画への反映や路線バスとの接続強化などに取り組むことで、更なる利便性向上を図っていく。 ・交通事業者と連携しながら、引き続き、地域住民が安全・安心に利用できる車内環境を整備し、コロナ禍における利用者の不安の払拭を図っていく。
宇都宮市地域公共交通協議会	事業者名:アサヒタクシー(株)	区域運行:豊郷地区(全域)	・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。 ・PR活動の実施などの利用促進を図った。 ・運転免許証返納者に対する回数券の配布を行うなど利用促進を行った。	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	【目標】 ・1回あたりの平均乗車人数2.0人／回に対し、2.1人であった。 【効果】 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が減少する中、交通事業者と連携し、車両における消毒の徹底など、地域住民の不安の払拭を図っている。	・引き続き、PR活動に積極的に取り組むとともに、今後、高齢者となる世代にも対応した利用促進策を検討していく。 ・既存公共交通との適切な役割分担のもと、地域ニーズの運行計画への反映や路線バスとの接続強化などに取り組むことで、更なる利便性向上を図っていく。 ・交通事業者と連携しながら、引き続き、地域住民が安全・安心に利用できる車内環境を整備し、コロナ禍における利用者の不安の払拭を図っていく。

宇都宮市地域公共交通協議会	事業者名:アサヒタクシー(株)	区域運行:清原南部地区(全域)	・PR活動の実施などの利用促進を図った。 ・本格運行開始以降の利用状況を踏まえ、車両を1日常駐にするなど、運行計画の見直しを図った。	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	【目標】 ・1回あたりの平均乗車人数2.0人／回に対し、2.0人であった。 【効果】 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が減少する中、交通事業者と連携し、車両における消毒の徹底など、地域住民の不安の払拭を図っている。	・引き続き、PR活動に積極的に取り組むとともに、今後、高齢者となる世代にも対応した利用促進策を検討していく。 ・既存公共交通との適切な役割分担のもと、地域ニーズの運行計画への反映や路線バスとの接続強化などに取り組むことで、更なる利便性向上を図っていく。 ・交通事業者と連携しながら、引き続き、地域住民が安全・安心に利用できる車内環境を整備し、コロナ禍における利用者の不安の払拭を図っていく。
宇都宮市地域公共交通協議会	事業者名:(有)雀タクシー	区域運行:雀宮地区(一部)	・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。 ・PR活動の実施などの利用促進を図った。 ・特に、未導入自治会の広報誌に地域内交通の紹介ページを盛り込むことで導入自治会の増加を促した。	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	【目標】 ・1回あたりの平均乗車人数2.0人／回に対し、1.9人であった。 ⇒導入自治会が拡大していることから、引き続き、地域ニーズを運行計画に反映し利便性の向上を図るとともに、さらなるPR活動の実施により、利用者の増加を目指していく。 ・後期高齢化率13.5%に対し、自治会加入世帯数に占める登録世帯数の割合は10.9%であった。 ⇒引き続き、PR活動に注力し、導入自治会の拡大などによる利用登録世帯の増加を目指していく。 【効果】 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、鉄道駅や路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が減少する中、交通事業者と連携し、車両における消毒の徹底など、地域住民の不安の払拭を図っている。	・順次、導入自治会が追加されており、今後の定着が期待できることから、引き続き、導入自治会の拡大を進めていくとともに、積極的なPR活動の実施など利用者の拡大に繋がる利用促進を図っていく。 ・既存公共交通との適切な役割分担のもと、地域ニーズの運行計画への反映や路線バスとの接続強化などに取り組むことで、更なる利便性向上を図っていく。 ・交通事業者と連携しながら、引き続き、地域住民が安全・安心に利用できる車内環境を整備し、コロナ禍における利用者の不安の払拭を図っていく。

宇都宮市地域公共交通協議会	事業者名:矢野自動車(株)	区域運行:姿川地区(全域)	・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。 ・PR活動の実施などの利用促進を図った。 ・特に、登録世帯に対する新規利用マニュアルの配布や、広報誌にカラー刷りのポスターを織り込むなど、利用者が見てわかりやすいPR活動を実施した。	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	【目標】 ・1回あたりの平均乗車人数2.0人／回に対し、1.9人であった。 ⇒利用者数が減少傾向にあるため、地域ニーズを運行計画に反映し利便性の向上を図るとともに、さらなるPR活動の実施により、利用者の増加を目指していく。 ・後期高齢化率12.4%に対し、自治会加入世帯数に占める登録世帯数の割合は8.6%であった。 ⇒引き続き、PR活動に注力し、利用登録世帯の増加を目指していく。 【効果】 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、鉄道駅や路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が減少する中、交通事業者と連携し、車両における消毒の徹底など、地域住民の不安の払拭を図っている。	・本格運行を開始して1年が経過したところであり、今後、利用の定着が期待できることから、引き続き、積極的なPR活動の実施など利用者の拡大に繋がる利用促進を図っていく。 ・既存公共交通との適切な役割分担のもと、地域ニーズの運行計画への反映や路線バスとの接続強化などに取り組むことで、更なる利便性向上を図っていく。 ・交通事業者と連携しながら、引き続き、地域住民が安全・安心に利用できる車内環境を整備し、コロナ禍における利用者の不安の払拭を図っていく。		
---------------	---------------	---------------	--	----------------------------	--	--	--	--

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年2月26日

関東運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
鹿沼市地域公共交通活性化協議会	鹿沼合同タクシー(株) 栗野地域デマンド 栗野、粕尾、永野、清洲	栗野地域内 区域運行 平成24年4月から、栗野地区、粕尾地区、永野地区、清洲地区の各デマンドを一元化した。	【公共交通の役割分担検討】 「地域公共交通計画」策定のなかで他の交通手段との役割分担を明確にする。 【新規獲得】 高齢者サロン等で出前講座を行い体験乗車等を行った。 【目標達成状況要因把握】 コロナウイルスによる外出自粛の影響で5月の利用者数が前年同月比62.5%で年間比79.1%であった。	計画どおり事業は適切に実施された。	目標 14.3人/日・台 平成28年度 14.0人/日・台 平成29年度 12.8人/日・台 平成30年度 12.5人/日・台 令和元年度 12.2人/日・台 令和2年度 9.6人/日・台 (目標達成率 67.1%) 前年実績と比較すると、2.6人/日・台減少している。	・事業は計画通りに実施したが外出自粛の影響で利用者は大幅に減少した。 ・高齢者向けの出前講座を引き続き行い、利用促進を図る。 ・路線バスとの乗り継ぎなどによる利用PR(バスマップ作成)を実施する。 ・「地域公共交通計画」を策定する中で公共交通の在り方を検討する。	高齢者サロン等での出前講座、体験乗車等の実施といった地道な努力は評価できるが、1日・1台当たりの利用者数の目標は、1系統を除き未達成となった。新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、従前より利用者数は全体的に減少傾向であることから、利用が伸び悩んだ理由を分析し、その結果を踏まえて今後の施策の検討を進めて頂きたい。 また、コミバスやデマンド交通について、どういった目的・ニーズで利用されているか、運行形態や行先、予約システムが利用者ニーズに合致しているかという検証はもちろん、今後、策定予定の地域公共交通計画においては、目指すべき地域の交通体系の実現に向け、設定している目標の指標が適切か、目標値の水準が適切か等の検討が行われることを期待する。	
	平和タクシー(有) 板荷・菊沢地区デマンド	板荷・菊沢地区内 区域運行 運行開始 平成22年11月	【公共交通の役割分担検討】 「地域公共交通計画」策定のなかで他の交通手段との役割分担を明確にする。 【新規獲得】 高齢者サロン等で出前講座を行い体験乗車等を行った。 【目標達成状況要因把握】 目標は達成したものの、コロナウイルスによる外出自粛の影響で4月の利用者数が前年同月比72.4%で年間比80.1%であった。	計画どおり事業は適切に実施された。	目標 18.6人/日・台 平成28年度 18.4人/日・台 平成29年度 17.4人/日・台 平成30年度 18.1人/日・台 令和元年度 22.4人/日・台 令和2年度 18.7人/日・台 (目標達成率 101.0%) 前年実績と比較すると、3.7人/日・台減少している。	・事業は計画通りに実施したが外出自粛の影響で利用者は大幅に減少した。 ・高齢者向けの出前講座を引き続き行い、利用促進を図る。 ・路線バスとの乗り継ぎなどによる利用PR(バスマップ作成)を実施する。 ・「地域公共交通計画」を策定する中で公共交通の在り方を検討する。		

鹿沼市地域公共交通活性化協議会	鹿沼合同タクシー(株) 北押原・南押原・北犬飼 地区デマンド	北押原・南押原・北犬飼地区 区域運行 運行開始 平成22年11月	【公共交通の役割分担検討】 「地域公共交通計画」策定のなかで他の交通手段との役割分担を明確にする。 【新規獲得】 コミュニティバスルート変更に伴いデマンド利用誘導を図った。 【目標達成状況要因把握】 コロナウイルスによる外出自粛の影響で4月の利用者数が前年同月比41.1%で年間比76.1%であった。	計画どおり事業は適切に実施された。	目標 17.8人/日・台 平成28年度 15.9人/日・台 平成29年度 15.7人/日・台 平成30年度 17.8人/日・台 令和元年度 15.1人/日・台 令和2年度 11.6人/日・台 (目標達成率 65.2%) 前年実績と比較すると、3.5人/日・台減少している。	・事業は計画通りに実施したが外出自粛の影響で利用者は大幅に減少した。 ・高齢者向けの出前講座を引き続き行い、利用促進を図る。 ・路線バスとの乗り継ぎなどによる利用PR(バスマップ作成)を実施する。 ・「地域公共交通計画」を策定する中で公共交通の在り方を検討する。
	鹿沼合同タクシー(株) 松原地区等デマンド	松原等地区内 区域運行 運行開始 平成23年11月	【公共交通の役割分担検討】 「地域公共交通計画」策定のなかで他の交通手段との役割分担を明確にする。 【新規獲得】 運転免許返納者に対しデマンドの案内を行った。 【目標達成状況要因把握】 コロナウイルスによる外出自粛の影響で4月の利用者数が前年同月比52.0%で年間比78.8%であった。	計画どおり事業は適切に実施された。	目標 13.3人/日・台 平成28年度 14.7人/日・台 平成29年度 13.4人/日・台 平成30年度 11.4人/日・台 令和元年度 12.0人/日・台 令和元年度 9.4人/日・台 (目標達成率 70.1%) 前年実績と比較すると、2.6人/日・台減少している。	・事業は計画通りに実施したが外出自粛の影響で利用者は大幅に減少した。 ・高齢者向けの出前講座を引き続き行い、利用促進を図る。 ・路線バスとの乗り継ぎなどによる利用PR(バスマップ作成)を実施する。 ・「地域公共交通計画」を策定する中で公共交通の在り方を検討する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年2月26日

関東運輸局

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
足利市地域公共交通会議	関東自動車株式会社	名草線 入名草～足利赤十字病院	認知度向上のため、住民や来訪者への情報発信やオープンデータ化など、新たな利用者の確保に向けた取り組みを進めるようにとの指摘があった。そのことから、標準的なバス情報フォーマットの整備を行い、令和2年5月にGoogleマップへの掲載を開始した。	事業は適切に実施された	1便あたりの平均利用者数 目標 5.5人以上 実績 4.0人	目標である1便あたり5.5人以上を達成することができなかった。 これまでバスを利用していた方が安心して利用できるよう感染防止対策を行うとともに、新規利用者を取り込めるような情報発信をより工夫して行うようにしたい。	バス情報フォーマットの整備を行い、令和2年5月にGoogleマップへの掲載を開始するなどの取り組みは評価できるが、目標である1便あたりの平均利用者数は達成することが出来なかった。 未達成の要因として新型コロナウイルス感染症拡大の他、運賃改正の影響によることも大きいと分析しているが、今まで活用していた方が有料になったから利用をやめたのか、他に利用をやめた原因があるのかどうか分析し、今後の施策の検討を行う事を期待する。 また、Googleマップへ掲載した効果や影響などについて今後、分析を行う事や、地域住民の声を聞き、運行形態や行先などがニーズに合致しているかどうか検証されることを期待する。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年2月26日

関東運輸局

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効 果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
栃木市地域公共交通会議	千代田タクシー (有) 栃木合同タクシー (株) 栃南タクシー(有) (有)大平タクシー 藤岡タクシー(株) (有)都賀タクシー (株)新交通 岩舟タクシー(株) 安全タクシー(有)	栃木市デマンド 型交通「愛称: 蔵タク」道路運 送法第4条によ る一般乗合旅 客自動車運送 事業(区域) ・北部エリア ・南部エリア	・周知及び利用促進のため、 SNSやコミュニティFMでの放 送や出前講座の開催、広報 紙への掲載などを行った。 ・栃木警察署と連携し、チラ シを配布してもらい、運転免 許証を自主的に返納した市 民に対し、回数券を配付し た。	事業は計 画通り適 切に実施 された	利用登録 者は目標 21,000人に 対して 21,736人で あった。 利用者数 は目標260 人/日に対 して、169.3 人/日で あった。	・引き続き、各地域説明会や老人ク ラブ等への出前講座を積極的に開 催し、制度の周知を図るとともに、 市で実施している免許証自主返納 支援事業利用者への登録及び利 用の呼びかけを行う。 ・平成30年10月に公共交通網形成 計画を策定し、令和2年3月から運 行内容の見直しを実施した。デマ ンド交通では、400円統一運賃への変 更や、ふれあいバス・蔵タクの回数 券を共通化することにより、利便性 の向上を図った。 ・今年度は、新型コロナウイルス感 染防止対策の一環として、三密を 避けるための乗車制限を実施した ことにより、利用者数が減少した。 今後も、この状況がしばらく継続 すると考えられるため、車内消毒や換 気の徹底など、利用者が安心して 乗車できる環境を整える。	事業が計画に位置づけら れたとおり、適切に実施され ている。 新型コロナウイルス感染症 の影響により目標達成には 至らなかったが、昨年度と同 様、利用者数の目標が達成 できなかった要因について は、コロナの影響がどれほど だったか、影響が出る前の 時期の数値と必ず比較・検 証し、改善しながら取り組む ことを期待する。 また、運行内容の見直しの 実施、またデマンド交通の運 賃変更については、効果の 検証を行うよう期待する。 今後の改善点に関しては、 記載にあるように利用者が 安心して利用できる環境を 整えられるよう、検討するこ とが望ましい。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表 (生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年2月26日

関東運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
真岡市地域公共交通活性化協議会	事業者名 芳南交通(株) 潮田タクシー(株) (有)二宮タクシー 運行系統名 市内全域	運行地域: 真岡市全域	・コミュニティバスの夏休み無料キャンペーンを引き続き実施するとともに、定期券の導入を行うなど、公共交通の利用促進を図った。 ・宇都宮大学との共同研究アンケート調査により把握したデマンドタクシーの利用状況等を分析し、効率的な乗合が図られるよう周知した。	計画どおり事業は適切に実施された。	・1日の平均利用者数は、目標の75人に対し、60.7人となり、形成計画に掲げる目標を下回った。目的地の分散化による乗合効率の低下や、予約時間常の集中により予約がとりにくい状況が続いたことが影響したと考えられる。 ・登録者数は、令和元年9月末で9,998人となり前年度と比較し4.8%増加しており、事業開始以来、登録者数は一貫して増加傾向にある。	・夏休み期間を利用した企画乗車事業などの利用促進策を実施する。 ・乗継ぎ環境の向上や利便性の高い運行方法を検討していく。 ・持続可能な公共交通を確保していくため、公共交通サポーター制度の導入するなど、利用者や交通事業者等と協働した事業を実施する。	コミュニティバスの夏休み無料キャンペーンの実施や、定期券の導入、小中学校での公共交通の利用方法の理解促進を図るため、学校モビリティマネジメントを実施を行うなど、公共交通の利用促進に取り組み、コミュニティバスでは1日あたりの平均利用者数の目標をを達成された事を評価する。 引き続き、広く市民への周知及び利用促進されること、また民間事業者や鉄道事業者とも連携し、地域全体として市民に利用しやすい公共体系となるよう検証することを期待する。	
真岡市地域公共交通活性化協議会	事業者名 大越観光バス(株) 運行系統名 真岡線	始 点:真岡駅東 ↓ ↑ 経由地:真岡市役所 ↓ ↑ 終 点:真岡駅東	・市内の小学校において、コミュニティバスをはじめ、公共交通の利用方法の理解促進を図るため、学校モビリティマネジメントを実施した。	計画どおり事業は適切に実施された。	・1日の平均利用者数は、目標の65人に対し、101.2人となり、形成計画に掲げる目標を大幅に上回った。 平成31年3月より運行内容が変更になったことにもない利用者数が増加したと考えられる。	・まちづくりや地域活性化の観点から、既存の民間バス路線や真岡鐵道との連携強化を図る。 ・地域座談会、出前講座、学校での乗り方教室の実施等、広く市民への周知及び利用促進を図る。	デマンド交通においては、宇都宮大学と共同研究アンケート調査を行い、利用状況等の分析を行ったことは評価出来るが、1日当たりの利用者の目標値は達成できなかった。 調査結果をよく分析し、運行形態などが利用者のニーズと合致しているかどうか、検証を行うことを期待する。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年2月26日
関東運輸局

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
大田原市地域公共交通会議	山和タクシー 有限会社	野崎・佐久山域 定路線	【利用促進】 ・市営バス路線・時刻表を15,000部作成、配布している。 ・市ホームページ・広報情報発信している。 ・時刻検索サイト「ナビタイム」「ジョルダン」へ情報提供し、利用者へ分かりやすい環境を形成している。 ・市営バスとデマンド交通を乗り継ぐ利用者の運賃を減免する「乗継割引」を継続し実施している。 ・デマンド交通の運賃にて、大田原市営バス及び関東自動車路線バスの定期券、並びに市営バス回数券の適用を継続して実施している。	○事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。 【事業内容】 公共交通空白地域においては、湯津上・黒羽地域区域運行が地域の移動手段として浸透している。 また、公共交通不便地域においては、野崎・佐久山地域区域運行が地域の移動手段として浸透している。	【利用者一人当たりの運行経費】 目標値:2,000円／人 実績値:3,677円／人(野崎・佐久山定路線) 3,237円／人(野崎・佐久山地域区域運行) 達成状況:利用者数は、新型コロナウイルス感染拡大防止の緊急事態宣言より減少し、目標効果の達成まで至らなかったが、コロナ禍の中であっても利用者数は回復していると考ええる。	1 利用者数増加 高齢者、観光客を対象にした、普及活動、利用促進を図る。 2 乗合率アップ 相乗り割引を検討し、乗合率向上を図る。 3 経費削減 車両更新に合せ、低コスト車両の検討を行う。 地域需要と利用状況に応じたデマンド交通の運行を検討する。	乗り継ぎの運賃割引やナビタイムやジョルダンへの情報提供に加えて、広域バスマップの配布による周知活動などの取り組みは評価出来るが、利用者一人当たりの運行経費の目標は新型コロナウイルス感染症の影響により達成には至らなかったが、引き続き、利用促進の取り組みを進めていただきたい。 また、引き続き乗り継ぎが負担にならないような施策を継続されることや、今後の路線再編について、地域住民の声をよく聞き、運行形態などが利用者のニーズと合致しているか検証されることを期待する。	
		野崎・佐久山域 区域運行						
		湯津上・黒羽域 区域運行	【経費の圧縮】 ・野崎・佐久山地域にて、経費削減及び利用者数向上のため、運行区域拡大を検討している。		【利用者一人当たりの運行経費】 目標値:2,000円／人 実績値:2,521円／人 達成状況:利用者数は、新型コロナウイルス感染拡大防止の緊急事態宣言より減少したが、全体では数が回復し、目標効果の達成まで僅かであった。			

**地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)**

令和3年2月26日

関東運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
那須烏山市地域 公共交通会議	烏山合同タクシー (株)	デマンド交通南那須地区 運行区域は、南那須地区全域及び烏山地区の指定施設(市役所烏山庁舎、那須南病院、山あげ会館、烏山台病院、水道庁舎)	・事業者間の応援体制を整え、緊急時に他エリアも運行できるよう運行エリアの拡大を行った。 ・デマンド交通認知度アップのため、職員出前講座を実施。 ・交通弱者に対する制度について関係課と協議を実施。	計画どおり事業は適切に実施された。	計画どおり実施したが、ほとんど未達成であった。乗車人数やJR利用者については、コロナ禍による外出自粛等の要因から人数が伸びなかった。利用者満足度については、満足度アップに向けて更なる改善及び利用方法の周知が必要である。	・運行エリア、料金体系等の運行上の見直しを含めた検討を行う。 ・デマンド交通の利用方法について、広報紙等で広く周知する。 ・積極的な出前講座の開催。 ・交通弱者に対する市助成制度等を検討する。 ・午後の利用向上についての施策を検討する。 ・運転免許自主返納者増を目指し、呼びかけ方法を検討する。 ・デマンド交通とJR烏山線を利用したお出かけを促進する周知を行う。	出前講座の実施や運行エリアの拡大により公共交通の認知度を広めるなど利用促進策の実施に努めたことは評価できる。新型コロナウイルス感染症の影響等により設定した目標値を達成できなかった点もあるが、引き続き広報等の利用促進策や利便性向上等の取り組みを継続的に実施されることを期待する。また、コミバスやデマンド交通について、どういった目的・ニーズで利用されているか、運行形態や行き先、予約システムが利用者のニーズに合致しているか検証し、市民にとって利用しやすい公共交通となることを期待する。	
那須烏山市地域 公共交通会議	(株)烏山観光タクシー 烏山合同タクシー (株)	デマンド交通烏山地区 運行区域は、烏山地区全域及び南那須地区の指定施設(市役所南那須庁舎、保健福祉センター、南那須図書館)	・事業者間の応援体制を整え、緊急時に他エリアも運行できるよう運行エリアの拡大を行った。 ・デマンド交通認知度アップのため、職員出前講座を実施。 ・交通弱者に対する制度について関係課と協議を実施。	計画どおり事業は適切に実施された。	計画どおり実施したが、ほとんど未達成であった。乗車人数やJR利用者については、コロナ禍による外出自粛等の要因から人数が伸びなかった。利用者満足度については、満足度アップに向けて更なる改善及び利用方法の周知が必要である。	・運行エリア、料金体系等の運行上の見直しを含めた検討を行う。 ・デマンド交通の利用方法について、広報紙等で広く周知する。 ・積極的な出前講座の開催。 ・交通弱者に対する市助成制度等を検討する。 ・午後の利用向上についての施策を検討する。 ・運転免許自主返納者増を目指し、呼びかけ方法を検討する。 ・デマンド交通とJR烏山線を利用したお出かけを促進する周知を行う。		

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成 3年 2月 26日

関東運輸局

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の 反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
さくら市地域公共交通会議	さくらタクシー有限公司	コンタ号・つういんコンタ号 旧喜連川町の全域及び黒須病院(旧氏家町域)	・広報紙(12月)、HP等による広報活動を実施した。 ・平成31年4月から、運行範囲を拡大し、旧喜連川町全域から黒須病院までを繋いだ。	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	【目標】 ○コンタ号 ・1人1回当たりの利用に対する公費負担額を1,000円以下 ・収支率17%以上 ・サービスに対する満足度：75%以上。 ○つういんコンタ号 ・1人1回当たりの利用に対する公費負担額を2,100円以下 ・収支率を16%以上 ・サービスに対する満足度：75%以上 【結果】 ○コンタ号 ・1人1回当たりの利用に対する公費負担額：1,148.06円 ・収支率12.97% ・サービスに対する満足度：45.6% ○つういんコンタ号 ・1人1回当たりの利用に対する公費負担額：5,602.32円 ・収支率5.64% ・サービスに対する満足度：59.1% いずれの目標も達成することができなかった。	・広報紙・HP等による利用促進を更に強める。 ・サロン事業や地域の集会等へ参加し、デマンド交通やデマンド交通の使い方の周知を行う。 ・さくら市地域公共交通網形成計画を基に、デマンド交通などの地域交通の調整を図っていく。 ・利用者の要望を集計し、どのような公共交通が望ましいか検討する。	事業が計画に位置づけられているとおり、適切に実施されている。 貴市においては、デマンド交通から路線バスへの乗継券発行事業を実施し、公共交通全体の利便性向上に努めたり、旧喜連川町域から黒須病院(旧氏家町域)までを繋ぐつういんコンタ号の運行を開始するなど、利用促進に努めている点を評価する。 一方で、目標を達成しているものについては評価出来るものの、達成出来なかった部分は、要因の把握・検証を確実にし、利便性の向上及び改善に繋げていくことが重要である。	
さくら市地域公共交通会議	有限会社誠タクシー	うのはな号 旧氏家町の全域	・平成29年10月から運行区域を拡大し、旧氏家町全域運行にした。 ・広報紙(12月)、HP等による広報活動を実施した。	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	【目標】 ・1人1回当たりの利用に対する公費負担額を1,500円以下 ・収支率13%以上 ・サービスに対する満足度：60%以上。 【結果】 ・1人1回当たりの利用に対する公費負担額：1,753.34円 ・収支率11.15% ・サービスに対する満足度：35.3% サービスに対する満足度が年々下がっており、主に1便にかかる時間等の要望が多い。 デマンド交通は時間がかかる公共交通であるという認識をもってもらえるようにし、更に、時間の短縮が可能か検討していく。	・広報紙・HP等による利用促進を更に強める。 ・サロン事業や地域の集会等へ参加し、デマンド交通やデマンド交通の使い方の周知を行う。 ・さくら市地域公共交通網形成計画を基に、デマンド交通などの地域交通の調整を図っていく。 ・利用者の要望を集計し、どのような公共交通が望ましいか検討する。	今後の改善点について、広報等による利用促進や運行形態の見直しの検討との記載があるのが、現在の運行が利用者のニーズに合致しているかなどを細かく検証しながら、市民にとって更に利用しやすい交通体系を構築されることを期待する。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表 (生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年2月26日

関東運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持事業

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
小山市地域公共交通会議	大山タクシー 有限会社 区域運行	桑絹地区	モビリティ・マネジメントの一環として、市内全域に路線図や時刻表といった情報のほか、バスの乗り方、沿線情報等を掲載したタブロイド紙を市内全世帯に配布。 利用対象者である高齢者等への説明会等の実施し、利用者への意見集約をしつつ、主要施設の追加等利用促進を図った。	事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	65歳以上登録者は前年に対し桑地区は0.2%増の10.0%、絹中久喜地区は1.3%減の30.2%となっている。年間稼働率は目標60%に対し51.3%で目標を達成している。1日当たりの便数は目標5便のところ4.1便で目標を下回っている。 いずれも新型コロナウイルス感染症拡大防止による外出自粛の影響と思われる。	高齢者等への説明会を実施するとともに集約した意見を基に運行内容の見直しを行い、利用促進を図る。また、主要施設の追加を行い利便性の向上を図る。	路線バスでは、既存の定期券より価格を半額以下にし、利用可能路線を1路線から全線に拡大した定期券の販売や、ダイヤの適正化などの取り組みを行ったこと、デマンド交通では、利用者への意見集約をしつつ、主要施設の追加等の取組は評価出来るが、路線バス、デマンド交通ともに利用者数および収支率の目標は達成できなかった。 目標が達成できなかった要因を新型コロナウイルス感染症の影響のみとせず、利用が伸び悩んだ理由について分析を行い、今後の施策の検討を進めていただきたい。また、バスロケーションシステムから得られる情報だけではなく、地域住民の声をよく聞き、運行形態や行先、予約システムが利用者のニーズと合致しているか検証し、市民にとって利用しやすい公共交通となることを期待したい。	
小山市地域公共交通会議	大山タクシー 有限会社 区域運行	寒川・生井地区		事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	目標は西部地区として豊田・中・穂積、寒川・生井地区全体で設定している。65歳以上登録者は前年に対し寒川・生井地区は1.2%増の28.5%となっている。年間稼働率は目標35%のところ22.6%で目標を下回っている。1日当たりの便数は目標3便のところ2.0便で目標を下回っている。 いずれも新型コロナウイルス感染症拡大防止による外出自粛の影響と思われる。			
小山市地域公共交通会議	大山タクシー 有限会社 区域運行	大谷中南部・間々田東部地区		事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	65歳以上登録者は前年に対し間々田東部地区は0.7%減の11.3%、大谷中南部地区は0.7%増の8.5%となっている。年間稼働率は目標40%のところ44.3%で目標を上回っている。1日当たりの便数は目標3便のところ3.5便で目標を達成している。 いずれも新型コロナウイルス感染症拡大防止による外出自粛の影響と思われる。			

小山市地域公共交通会議	大山タクシー 有限会社 城東中久喜線	小山駅東口 (イオンモール 小山前) 高専正門	モビリティ・マネジメントの一環として、市内全域に路線図や時刻表といった情報のほか、バスの乗り方、沿線情報等を掲載したタブロイド紙を市内全世帯に配布。	事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	目標260人/日に対して、204人/日であり、目標を下回っている。 新型コロナウイルス感染症拡大防止による外出自粛の影響と思われる。	今後も効果的な運行を継続し、モビリティ・マネジメントを通じてPRに努め、沿線地域の利用促進を図る。バスロケーションシステムから得られるデータをもとに、利用者の利便性向上とダイヤの適正化を図る。
小山市地域公共交通会議	大山タクシー 有限会社 大谷中央線	小山駅東口 (小山整形外科内科) 大谷公民館	既存の定期券より価格を半額以下にし、利用可能路線を1路線から全線に拡大した定期券「おーバスnoroca」を発売。		目標205人/日に対して、150人/日であり、目標を下回っている。 新型コロナウイルス感染症拡大防止による外出自粛の影響と思われる。	
小山市地域公共交通会議	大山タクシー 有限会社 土塔平成通り線	小山駅東口 (小山工業団地北) 関東能開大正門	バスロケーションシステムから得られた情報と利用者の要望をもとに、利用者の利便性向上とダイヤの適正化を図る。		目標220人/日に対して、173人/日であり、目標を下回っている。 新型コロナウイルス感染症拡大防止による外出自粛の影響と思われる。	
小山市地域公共交通会議	株式会社 小山中央観光バス 間々田東西線	光南病院 (間々田駅東口) 新市民病院			目標85人/日に対して、58人/日であり、目標を下回っている。 新型コロナウイルス感染症拡大防止による外出自粛の影響と思われる。	

**地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)**

令和 3年 2月 26日

関東運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
日光市地域公共交通会議	日光線通運(株)	日光市デマンド交通 ・運行日：毎日 ・運行時間帯：7時～19時 ・運行地域：小来川地区 ・車両及び台数：10人乗り ワゴン車1台 ・運賃：1回300円	9月を「デマンドバス利用促進月間」とし、利用料金300円のところ利用促進月間中(令和2年9月1日～9月30日)に限り100円とし、デマンドバスの利用促進と新規利用者獲得を図った。 また、高齢者交通安全教室や地域の集会等で説明会を引き続き開催し、新規利用者への周知及び既利用者からの意見聴取なども実施した。車両にステップを取り付けることにより高齢者等に利用しやすい環境を整備した。	計画どおりに事業は適正に実施された。	目標利用者数940人の現状維持に対し、332人増であり、目標を上回った。	引き続き、高齢者の交通安全教室や地域の集会等で説明会を開催し、新規利用者への周知及び既利用者からの意見聴取に努めるとともに、広報紙やホームページ等においても事業のPRを実施し、利用促進を図る。 今後、登録者に対しアンケート調査を行い、利用状況について分析し改善策について検討する。 また、デマンドバスだけでなく、公共交通全般の利用促進を図るため、広報やホームページでの周知活動を実施していく。	各地区とも利用促進月間や交通安全教室等での周知、落合地区については、関係機関(社会福祉協議会)との連携により、自治会役員等への周知を行い、利用者数の増加に努めたことを評価する。	
日光市地域公共交通会議	日光線通運(株)	日光市デマンド交通 ・運行日：毎日 ・運行時間帯：7時～19時 ・運行地域：猪倉地区 ・車両及び台数：10人乗り ワゴン車1台 ・運賃：1回300円	9月を「デマンドバス利用促進月間」とし、利用料金300円のところ利用促進月間中(令和2年9月1日～9月30日)に限り100円とし、デマンドバスの利用促進と新規利用者獲得を図った。 また、高齢者交通安全教室や地域の集会等で説明会を引き続き開催し、新規利用者への周知及び既利用者からの意見聴取なども実施した。車両にステップを取り付けることにより高齢者等に利用しやすい環境を整備した。	計画どおりに事業は適正に実施された。	目標利用者数前年度の100人増(1,828人)に対し、94人の減であり、目標を下回った。	引き続き、高齢者の交通安全教室や地域の集会等で説明会を開催し、新規利用者への周知及び既利用者からの意見聴取に努めるとともに、広報紙やホームページ等においても事業のPRを実施し、利用促進を図る。 今後、登録者に対しアンケート調査を行い、利用状況について分析し改善策について検討する。 また、デマンドバスだけでなく、公共交通全般の利用促進を図るため、広報やホームページでの周知活動を実施していく。	3系統中2系統は目標を達成しているが、1系統については目標を達成出来ていないため、しっかりと要因を分析し、新たな取り組みを検討するなど、更なる利用促進を進めていただきたい。 また、新型コロナウイルス感染拡大の影響があげられているが、利用者減少の要因を新型コロナウイルス感染症の影響のみとせず、増減の理由を丹念に分析し、その結果を踏まえて今後の施策の検討を進めて頂きたい。 引き続き、持続可能な公共交通の構築に向け取り組んでいただくことを期待する。	
日光市地域公共交通会議	日光線通運(株)	日光市デマンド交通 ・運行日：毎日 ・運行時間帯：7時～19時 ・運行地域：落合地区 ・車両及び台数：10人乗り ワゴン車1台 ・運賃：1回300円	9月を「デマンドバス利用促進月間」とし、利用料金300円のところ利用促進月間中(令和2年9月1日～9月30日)に限り100円とし、デマンドバスの利用促進と新規利用者獲得を図った。 また、高齢者交通安全教室や地域の集会等で説明会を引き続き開催し、新規利用者への周知及び既利用者からの意見聴取なども実施した。車両にステップを取り付けることにより高齢者等に利用しやすい環境を整備した。	計画どおりに事業は適正に実施された。	目標利用者数前年度の100人増(668人)に対し、10人増であり、目標を上回った。	引き続き、高齢者の交通安全教室や地域の集会等で説明会を開催し、新規利用者への周知及び既利用者からの意見聴取に努めるとともに、広報紙やホームページ等においても事業のPRを実施し、利用促進を図る。 今後、登録者に対しアンケート調査を行い、利用状況について分析し改善策について検討する。 また、デマンドバスだけでなく、公共交通全般の利用促進を図るため、広報やホームページでの周知活動を実施していく。		

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年2月26日
関東運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
下野市地域公共交通会議	【事業者名】 関東交通株式会社 【運行系統名】 下野市全域	【デマンド交通「乗合タクシー」】 事業者名：関東交通株式会社 運行区域：下野市全域(石橋・国分寺・南河内の3エリア) 運行日：月曜日から土曜日 ※祝日及び振替休日、年末年始(12/30～1/3)を除く 運行時間：午前8時00分～午後6時00分 運行本数：1エリア10便/1日 運行車両：9人乗りワゴン車 3台(1エリアごとに1台配置) 運賃：大人(中学生以上)300円・小学生200円・未就学児無料(ただし、保護者同伴を要する)	平成28年4月に策定した「下野市地域公共交通総合連携計画」に基づき、デマンドバスを運行した。 併せて、令和3年3月の地域公共交通計画の策定に向けて、公共交通の現状の把握分析、課題整理に努め、デマンド交通の運行の見直しについて協議検討を進めた。	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う移動自粛等の影響を大きく受け、1日当たりの利用者数は67.7人で、前年度より12.9人減となり、目標値133人の50.9%であった。	「下野市地域公共交通計画」(令和3年3月策定予定)に基づきデマンド交通の運行方法見直しを行い、利用環境の向上を図る。 ・運行エリアの一体化⇒3エリアに分けて運行しているため、エリアを跨ぐ際の乗継ぎの不便さを改善する。 ・車体の小型化⇒利用実態を踏まえ、9人乗りのワゴン車3台による運行から、セダン型車両4台を基本とする運行に変更する。 ・AIを活用した配車システムの導入⇒デマンド交通の予約をアプリ等で行えるオンデマンドシステムを導入する。	外出支援事業としてデマンドバスの回数券を交付するなどの取組は評価出来るが、1日当たりの利用者数の目標は未達成となった。目標が未達成となった要因を新型コロナウイルス感染症の影響のみとせず、利用者が伸び悩んだ理由について分析を行い、今後の施策の検討をされることを期待する。 今後はフルデマンド化やAIを活用した配車システムの導入など、大きく利用内容が変更となるため、利用者への周知活動を行うことを期待する。また、運行内容を変更して終わりにするのではなく、地域住民の声をよく聞き、運行形態や行先、予約方法など、利用者のニーズに合致しているかどうか検証を行い、市民にとって利用しやすい公共交通となることを期待する。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年2月26日

関東運輸局

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
茂木町地域公共交通会議	(株)柏タクシー	茂木エリア	実利用者数の減少に伴い、前回の事業評価時において目標の22,520人(77人／日)に対し、実績が20,002人(69人／日)だったことから、収支状況の改善を目指し運行時間の精査を行い、令和2年4月1日から1便減便した。目標として21,040人(72人／日)を設定した。	計画どおり事業は実施された	【目標と実績】 ①運行サービスにおける利用者満足度90%以上に対し、87% ②めぐるくんdeおでかけ券の利用枚数1,000枚以上に対し、1,040枚 ③目標利用者数21,040人(72人／日)に対し、18,315人(63人／日) ④運転免許証自主返納者のデマンド登録利用者数80人以上に対し、109人 【目標を達成できた理由】 ②制度が浸透したことに加え、協賛・協力店の親切な対応によるものと考えられる。 ④管内の警察署と連携し、免許証自主返納者への窓口での周知や、町広報誌での専用コーナー新設による広報強化によると考えられる。 【目標を達成できなかった理由】 ①1便減便(アンケート結果から)が要因と考えられる。 ③新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛が大きな要因と思われる。	・新型コロナウイルス感染症の終息後に向けたお出かけ促進事業・デマンドを活用した町外観光誘客事業を検討していく。 ・75歳以上の運転免許自主返納者への割引制度等拡充及び広報の強化を行い、利用の多い年代である高齢者を車からめぐるくんへの利用転換を促し、新たな需要喚起するとともに、高齢者の安全、安心な生活づくりを図る。 ・平成30年4月より導入した回数券のPR強化や、目的施設追加のPRを引き続き行い、利用者の利便性の向上や需要増を図る。	利用者満足度や利用者数は目標が達成できなかったが、地域の協賛点や警察署と連携した周知活動に取り組まれ、めぐるくんdeおでかけ券の利用枚数や運転免許証自主返納者のデマンド登録利用者数の目標を達成されたことを評価する。利用者満足度の目標を達成できなかった理由について、アンケート結果を踏まえ、今後の施策の検討を進めていきたい。また、引き続き、地域で協力した周知活動や利用者へのアンケートなどを行い、公共交通の利用促進および、利用者のニーズに合致した運行内容の見直し等をされることを期待する。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年2月26日

関東運輸局

評価対象事業名：陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
益子町地域公共交通会議	七井タクシー 七井地区	七井～益子地区	町・タクシー事業者・商工会との意見交換を定期的に行い、デマンドタクシーの利用実績や、利用者の意見等を3者間で共有している。また、今後利用者を増やしていくための取組について、意見交換も行っている。	計画通り、事業は適切に実施された。	運行系統ごとの計画は立てておらず、全体として目標50人/日に対して、47人/日であった(R1.10～R2.9)。H26.4より本格運行を開始し6年目を迎え、町民の方々にも広く認知いただけるようになった。しかし令和2年春からコロナ禍により利用者が減少し目標数を達成出来なかった。R1.12には1日の最大利用者が91人を記録した反面、R2.5月に1日の最低利用者が5人という日もあった。また、利用者登録数は3,417人(R2.9末)で、令和2年度の目標3,300人を達成している。予想困難なコロナ禍による想定出来ない振幅の大きな1年となったことと、目標の一部を達成したため評価はBとした。	・高齢者単独世帯への周知として地域の民生委員管轄課と連携し、また一般向けには町広報紙によるPRをして利用者の増加を図る。 ・高齢利用者の利用やトラブル等に対しては福祉・高齢者支援関係課とも連携をし、利用者のフォローアップを図り、利用を増やしていくための取組を行う。 ・継続して安定した事業運営をしていく。	町広報紙や防災無線によるPRや、登録や利用方法を役場内外問わず説明に出向いて行うなどの取組を行い、利用登録目標を達成された事を評価する。1日あたりの利用者数においても、新型コロナウイルス感染症の影響により、若干目標達成には及ばなかったが、引き続き利用促進の取組をされることを期待する。今後も引き続き運行内容等が利用者のニーズと合致しているかどうか検証し、市民にとって利用しやすい公共交通となることを期待する。	
益子町地域公共交通会議	益子タクシー(有) 田野地区	田野～益子地区		計画通り、事業は適切に実施された。				
益子町地域公共交通会議	新光タクシー(有) 益子地区	益子～七井～田野地区		計画通り、事業は適切に実施された。				

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年2月26日

関東運輸局

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
市貝町地域公共交通会議	(株)柏タクシー (R1.10.1～R2.9.30)	市貝町全域、芳賀町祖母井地区、芳賀町上延生ロマンの湯、茂木町茂木さとう耳鼻咽喉科クリニック、益子町芦沼青木医院	前回の事業評価においては目標を達成できていない点があったと評価したが、利用実態を常に注視し、継続して利用者の利便性向上に努めた。	計画どおり事業は適切に実施された。	利用者数目標10,122人に対し6,953人であった。また、利用登録者数は、目標2,300人に対して、2,136人であった。	運転免許を返納した高齢者に、本デマンドタクシーの利用券を交付する等、新規利用者の確保、利用頻度の向上に努める。	運転免許証を返納した高齢者に利用回数券の交付する取組などは評価出来るが、利用者数および登録者数の目標は未達成となった。利用者数の減少した要因を新型コロナウイルス感染症の影響のみとせず、利用者数が伸び悩んだ理由について分析し、その結果を踏まえて今後の施策の検討を進めていきたい。 また、運行内容や行先、予約方法などが利用者のニーズと合致しているか、利用実態を注視するだけでなく、利用者の声を聞くことなども行い、検証されることを期待する。	

**地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)**

令和3年2月26日

関東運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
壬生町地域公共交通会議	野口タクシー有限 会社 みどり交通有限会 社 壬生観光自動車有 限会社 壬生タクシー有限 会社	事業名：壬生町デマンドタクシー みぶまる運行事業 運行区域：壬生町全域 運行日：月～金(土・日・祝日、年 末年始運休) 運行時間：8～16時 1時間/便 運行本数：1日9便 運行本数：セダン型タクシー2台 運賃：中学生以上300円、 小学生100円、 未就学児無料	・町広報誌によりデマンドタク シー事業の利用・注意点に 関する案内を行い、事業周 知による新規利用者の獲得 やリピーターの発掘に努め た。 ・事業の継続に向け、運行事 業者と連携し、委託費の見 直しを行った。 ・本町では新庁舎の移転が 決まったことから、今後の新 しい町公共交通を構築する べく、公共交通計画(マス タープラン)策定への着手を 行ったところである。令和3 年度での計画策定を予定し ている中で、今年度は住民 アンケートや既存公共交通 事業の実績分析などを行 い、町公共交通の改善検討 作業を実施しているところ であり、来年度については、収 集・分析データを基に計画本 体の策定作業を行う予定と なっている。	事業は計 画通り適 切に実施 された。	・目標①(登録者数)達成 登録者数目標5,385人/年に対し、 5,490人/年であった。 ・目標②(利用者数)達成 利用者数目標9,302人/年に対し、 7,611人/年であった。 ・目標③(運転免許返納者数)未達 成 返納者数目標69人/年に対し、88人 /年であった。 【考察】 目標①、③については、無事達成 をすることができたが、目標②につ いては、新型コロナウイルスによる 政府の緊急事態宣言や外出自粛 要請などの影響もあり、利用者の 外出機会の減少によるものだと考 えられる。現在においても新型コ ロナウイルスの感染者は増加傾向に あるため、今後の利用者の回復に ついてはコロナウイルスの感染動 向に大きく左右されると思われる。	・引き続き町広報誌や町公式 ウェブサイトによりデマンドタク シーの利用に関する周知・案 内を行い、利用者の新規発掘 やリピーターの獲得に努める。 ・運行状況や社会情勢を考慮 し、状況に応じた運行体制での 事業実施を行う。 ・現在作成中の公共交通計画 (マスタープラン)に関して、引 き続き策定作業を進めるとも に、近年微減傾向にある利用 者数の改善や現在の運行方法 の見直しなどを行い、効率的な 運営の実現に努める。	広報PR活動等を通じ公共交 通の認知度を広めるなどの 利用促進策を講じることで利 用者の新規発掘やリピー ターの獲得に努めたことは 評価できる。新型コロナウイ ルス感染症の影響等によ り、利用者数について目標 値を達成できなかった点もあ るが、引き続き広報等の利 用促進策や利便性向上等の 取り組みを継続的に実施さ れることを期待する。また、コ ミバスやデマンド交通につ いて、どういった目的・ニーズで 利用されているか、運行形 態や行き先、予約システム が利用者のニーズに合致し ているか検証し、市民にとっ て利用しやすい公共交通と なることを期待する。	

**地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)**

令和3年2月26日

関東運輸局

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
上三川町地域公共交通会議	関東交通株式会社	上三川町デマンド交通	・他自治体との連携した事業への取組み、地域全体の公共交通のあり方の検証 近接する下野市及び壬生町との共同で行っているゆうがおバスの実証運行をきっかけにデマンド交通の相互利用についても検討を進めている。 ・事業者が保有するデータの入手・活用 運行実績データと予約お断り実態の検証により1日76件以上の移動が発生するとお断り件数が2.5人を超す実態が分かったため、解消に向けて取り組んでいきたい。 ・取組みの結果についての追跡調査、行動変容・ニーズの確認 紹介動画、広報、新聞記事及び車内掲示等で午後の利用を呼び掛けているが、新型コロナウイルスの感染拡大により利用状況が大きく変化した効果を測定できなかった。 ・商業施設等との連携を図りつつ、現在の事業の効果を検証しながら乗ってもらうきっかけづくり 町商工会及び町内大型ホームセンターの協力により、商業事業者負担での割引券等の発行が始まり、商業事業等との連携により町の公共交通ネットワークを促進する仕組みができた。	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった 【未達成項目】 計画：1日あたり75人分の移動手段を確保する。 ↓ 実績：1日あたり54.3人	これまでの取組やアンケート等での要望を踏まえ自動予約配車システムを導入し必要な利便性の向上を図る 主な狙い 1 空き時間や空席の活用等による効率化によるお断り状況の改善 2 大まかな送迎時間の指定を可能にすることで、バス及び鉄道との接続を強化する 3 電話予約に加えスマホ等IT端末での予約を可能にする 4 効率的な乗合いをつくる結果、一人当たり乗車時間の増が見込まれるが、デマンド水準のサービスレベルとして理解を広げ、タクシー業との望ましい差別化を図っていく 路線バスとの接続強化 最寄り鉄道駅である石橋駅東口を区間運行先としているが、バス停のある西口も乗降場所とすることで乗換えをしやすいとする。	隣接市と協力した連携した事業への取組みや、町内の事業者と連携したデマンド交通の割引券発行事業などに取組は評価出来るが、1日あたり75人分の移動手段を確保するという目標は未達成となった。新型コロナウイルス感染症の影響により、目標達成には至らなかったが、今後とも隣接市、町内で連携した取組を行い、利用促進を行う事を期待する。 また、新たに見えた予約をお断りする実態の解消に向けて、利用者の声を聞きニーズに合ったものを検証していただきたい。路線バスとの接続についても、単に乗降場所に加えるのではなく、乗り継ぎが負担とならないような施策が実施され、地域の公共交通が一体的に使いやすいものとなるよう検討されることを期待する。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年2月26日

関東運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
野木町公共交通 活性化会議	・小山合同タクシー (株) ・(有)野木タクシー	町内全域	・前回の事業評価結果を踏まえ、利用者アンケート及び未利用者アンケートを実施した。 ・利用者アンケートの集計結果より利用者が感じたデマンドタクシーに対する不満点を改善するため、タクシー事業者及び業務委託先と打合せを行い意見交換した。 ・PRチラシをスーパーやドラッグストアにも置くなど配架場所を増やした。 ・例年行っていた町主催の敬老会におけるパンフレットの配布については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催されなかったことから配布を行わなかった。 ・町広報誌において、デマンド特集記事を組み、登録及び利用の促進を図った。	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	・目標数値である利用登録者数の2,650人に対して、本年度の利用登録者数は2,707人(令和2年9月末現在)であり目標を達成した。登録者の推移であるが、実証(試行)運行の当初年度の平成21年度(実施は11月から)は1,223人、平成22年度、平成23年度、平成24年度、平成25年度は250人前後、平成26年度は174人、平成27年度は149人、平成28年度は157人、平成29年度は153人、平成30年度は144人、令和元年度は169人と増加したが、令和2年度の登録数は151人であり、昨年に比べ減少した結果となった。 ・目標数値である1日平均利用者数37.0人/日に対して、約34.6人/日であった。実証(試行)運行の当初年度の平成21年度(実施は11月から)は23.8人/日、2年目の平成22年度は29.3人/日、3年目の平成23年度は31.8人/日、4年目の平成24年度は34.5人/日、5年目の平成25年度は36.8人、平成26年度には35.0人/日、平成27年度には37.5人/日、平成28年度には38.9人/日、平成29年度は37.4人/日、平成30年度も35.6人/日、令和元年度は38.3人/日と増加した。令和2年度の平均利用者数については、新型コロナウイルス感染症流行前の令和2年2月までの平均利用者数は40.2人/日であり対前年同時期比に対して15.5%増加していたが、新型コロナウイルス感染症流行後の利用者数減少が大きく影響し、減少した結果となった。 ・65歳以上の利用者が全体の91.1%であった。また、利用者アンケートの回答者のうち、送迎を頼める人がいない方が52.8%でその半数以上の方のよく使う移動手段がデマンド交通であるとの回答を得たことから事業目的である高齢者等の交通弱者対策のための「安全で安心に移動できる「地域の足」の確保」として事業目的を果たしていることが伺える。	今後も、アンケート調査により、利用者のニーズ等を把握する。その結果を受け、声の大きい要望かつ効果が大きいものについてはその実現に向けて調整を行う。また登録及び利用の促進を図るため、広報による特集ページの掲載やパンフレット等による周知等を行う。 定量的な目標については、運行実施から10年が経過したこともあり、10年間の実績を踏まえるとともに、さらなるPRや利用者要望に寄り添ったデマンド交通になるように努め、その効果を加味した目標値を設定するものとする。	PRチラシを置く場所を増やしたり、町広報誌で特集ページを組み、周知及び登録促進を行うなどの取組を行い、デマンドタクシー利用登録者数を達成された事を評価する。デマンドタクシー利用者数において、新型コロナウイルス感染症の影響により、目標達成には至らなかったが、引き続き、公共交通副読本への無料券添付を行うなど利用促進の取組を行う事を期待する。 また、引き続きアンケート調査を行い、地域住民の不満やニーズ等を把握し、市民にとって利用しやすい公共交通となるよう、運行内容や行先、予約方法など、事業者と協力して検討していくことを期待する。	

令和3年2月26日

関東運輸局

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効 果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
那須町地域公共交通活性化協議会	那須合同自動車株式会社	北部運行区域 (黒田原行き)	令和2年1月の事業評価結果を受け、コロナ禍で利用促進が難しい状況下においても、「きっかけづくり」は継続的に実施する必要があるという観点から、小学生を対象としたバスの乗り方教室の開催を企画(実施は10月)した。	A	C	コロナ禍収束の目途がたっており、しばらくは「移動制約者の日常生活の足の確保」を第一に考え、感染予防活動の継続を前提に現在の運行サービスを維持する。積極的な利用促進は難しいが、長期的な視点の利用促進に向け「きっかけづくりのイベント」は継続的に実施する。その結果として、来年度の目標値である年間利用者数5,300人の達成を目指す。	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されており、バスブックの全戸への配布や、バスの乗り方教室、デマンドの使い方に関する出前講座を企画されるなど、コロナ禍で利用促進の取組みが難しい状況の中で、利用促進に取り組まれたことを評価する。 目標の達成状況については、新型コロナウイルス感染拡大の影響があげられているが、利用者減少の要因を新型コロナウイルス感染症の影響のみとせず、利用者増減の理由を丹念に分析し、その結果を踏まえて今後の施策の検討を進めて頂き、今後も、持続可能な公共交通を構築されるよう進めていただきたくことを期待する。	
		北部運行区域 (菅間記念病院行き)						
		北部運行区域 (広谷地行き)						
		南部運行区域 (黒田原行き)						
		南部運行区域 (菅間記念病院行き)						

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年2月26日

関東運輸局

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持事業

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業) の事業評価結果の反映 状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
塩谷町地域公共交通会議	大新東株式会社	塩谷町デマ ンド交通	新規事業のため、特に なし	事業が計 画に位置 づけられ たとおり、 適切に実 施された	事業が計画に位置 付けられた目標 を達成できていな い点があった(一 部達成できない見 込み) 【未達成項目】 指標①:1日あたり 平均利用人数 ・目標値:18人/日 ・実績値:12.4人/ 日 指標②:1運行あ たり平均乗車人数 ・目標値:2.0人/回 ・実績値:1.5人/回	・「塩谷病院から塩谷町への 帰りの確保」「需要の多い 朝の塩谷病院行きの運行確 保」「乗り継ぎ対応の減少」に 向けて、令和3年1月より下 記の通り運行を変更する。 ①デマンド交通車両(ワゴン 車)の1台追加 ②予約・運用システムの導 入 ③町外13時台の便を増設 ・デマンド交通自体の利用促 進や、路線バスとの乗継利 用促進のため、町内の広報 誌において、デマンド交通 の利用方法や利用プラン例、 実際の利用者インタビュー結 果等を掲載して広報する。	事業が計画に位置づけられたと おり、適切に実施されており評価 できる。 目標値が未達成となったことに ついては、要因を分析し、今後の 改善に繋がる取組について検討し ていただきたい。 今後の改善点に記載されている 事業について、乗り継ぎ利用者が ハードルに感じていることを分析 し、どういった目的・ニーズで利用 されているか、運行形態や行先、 今後導入する予約システムが利 用者のニーズに合致しているかな ど検証を行い、市民にとって利用 しやすい交通手段となることを期 待する。	